

義務教育学校について

2022年10月21日（金）
札幌市教育委員会

Ⅰ 義務教育学校とは

札幌市では、令和4年4月から全市立小中学校で「小中一貫した教育」を全面实施します。

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点

- 1 9年間を通した子どもの学びのつながり
- 2 子ども理解・生徒指導の連続性
- 3 教職員の連携・協働
- 4 家庭や地域との関わり

さっぽろっ子 小中一貫したつながりのススメ

「小中一貫した教育」は、札幌らしい「教育のススメ方」です。

小学校と中学校が互いにつながり、学び合いながら、学校・家庭・地域が互いにつながり、同じ目線に立ちながら、途切れることなく、全ての子どもに寄り添い、見守り、育みます。

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるように。

学校・家庭・地域のつながりの中で、連続性をもって子どもを育みます。

さっぽろっ子「学び」のススメによる一貫した習慣づくり

9年間の学びをつなげます

分かる・できる・楽しい授業による連続性のある教育の推進

子どもの育ちをつなげます

小・中の指導のよさを取り入れた切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から札幌らしい教育を進めます

小中の教職員がつながります

互いの顔が見える関係づくりによる小中の教職員の連携の強化

学校・家庭・地域がつながります

目指す子どもの姿の共有などによる地域とともにある学校づくりの推進

札幌市では、令和4年4月から全市立小中一貫した義務教育学校を全面实施しました。詳しくはホームページをご覧ください。



学校・家庭・地域が互いにつながり、まほうのかわや

9年間の系統性・連続性のある教育を実現し、子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実を図ります。

9年間の学びをつなげます

分かる・できる・楽しい授業による連続性のある教育の推進

子どもの育ちをつなげます

小・中の指導のよさを取り入れた切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から札幌らしい教育を進めます

小中の教職員がつながります

互いの顔が見える関係づくりによる小中の教職員の連携の強化

学校・家庭・地域がつながります

目指す子どもの姿の共有などによる地域とともにある学校づくりの推進

I 義務教育学校とは

小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

① 9年間を通した子どもの学びのつながり

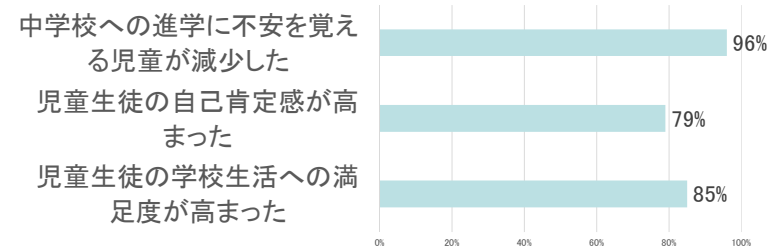


5

I 義務教育学校とは

小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

② 子ども理解・生徒指導の連続性

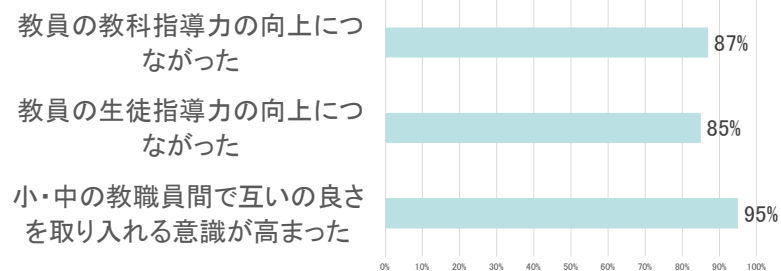


6

I 義務教育学校とは

小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

③ 教職員の連携・協働

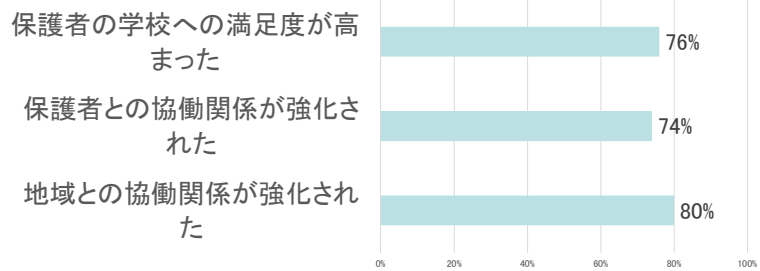


7

I 義務教育学校とは

小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

④ 家庭や地域との関わり



8

I 義務教育学校とは

小中一貫教育制度について

札幌市の小中一貫した教育(制度によらない一貫教育)

中学校区を基礎単位としてパートナー校を設定し、

目指す子ども像を共有するなど4つの視点に基づいた取組を推進

小中一貫校(平成28年度に制度化)

法整備された仕組みであり、9年間を通じた教育課程の編成や系統的な教育を目指す学校

併設型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態であり、それぞれに校長、教職員組織を有する学校

義務教育学校

1人の校長の下、1つの教職員組織で義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成、実施する学校

どちらの学校であっても施設の形態(一体型、隣接型、分離型)は問わない。

9

I 義務教育学校とは

校長の体制×小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

★ 総合評価

1人の校長が小中学校を兼務

N=131



校長は複数いるが責任者が決まっている

N=115



学校別に校長がおり適宜連携

N=884



■ 大きな成果あり ■ 成果あり

10

I 義務教育学校とは

施設形態×小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

★ 総合評価

施設一体型

N=148



施設隣接型

N=59



施設分離型

N=882



■ 大きな成果あり ■ 成果あり

11

I 義務教育学校とは

以上を踏まえて、

○札幌市においては、一定の条件を満たす地域については、**組織が一つで校舎も一体である義務教育学校を設置することとしました。**

○さらに札幌市で設置する**義務教育学校で蓄積する取組事例を全市の学校へ積極的に伝えることで、「小中一貫した教育」の更なる推進につなげます。**

- 通学区域が概ね同一校区であること
- 小中一体の校舎である、または小中一体の校舎整備を行うこと

12

I 義務教育学校とは

学年の区切り(指導区分)

義務教育学校の効果を最大限発揮するためには、小中学校段階の円滑な接続ができることが非常に重要と認識。

※前述の文部科学省調査においても6-3以外の指導区分の方が小中一貫教育の効果が高いともされています。

→札幌市立の義務教育学校においては、**小中にまたがる学年の区切りを設けて**、小中一貫した教育の更なる推進を目指します。

13

I 義務教育学校とは

学年の区切り(指導区分)

小学校でも中学校でもない、小学校1年生段階から中学校3年生段階まで一体のものとして運営する学校。

★ 他都市の一例

前期課程						後期課程		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
1年～4年(最初の区切り) ・4年をリーダーとした縦断的活動 ・4年生までの学習発表会を実施				5年～7年(接続する区切り) ・5年生段階から教科担任制の一部実施 ・委員会活動 部活動 ・5年次からの50分授業			8・9年(最後の区切り) ・学校のリーダーとしての活動	

14

I 義務教育学校とは

課題と対応策

○課題① 転出入者への学習指導上の対応

⇒ 義務教育学校においては、中学校段階の授業の先取り(指導内容の入替え)も制度的には可能ですが、転出入者への対応を考慮し、札幌市では行わないこととします。

○課題② 小6段階でのリーダーシップ育成

⇒ 他都市においては指導の区分を4-3-2に分け、各段階でリーダーシップを育てるなどの工夫を行っている事例があります。

15

I 義務教育学校とは

課題と対応策

○課題③ 幅広い学年の子どもが同じ校舎で過ごすことに伴う生徒指導上の対応

⇒ 他都市視察では、幅広い異年齢集団による活動を推進することが、学校全体の生徒の落ち着き(問題行動の激減)につながっている事例を目の当たりにしました。

先行事例も踏まえ、十分に学校とも相談しながら、より良い学校づくりを目指してまいります。

16

I 義務教育学校とは

【事例】

京都市立向島秀蓮小中学校

- ◆ 4-3-2の指導区分
 - ・ベーシックステージ(1~4年)
 - ・チームステージ(5~7年)
 - ・ビジョンステージ(8~9年)
- ◆ 全校児童生徒数860人
- ◆ 教職員数85人
- ◆ 元々は3小1中の地域

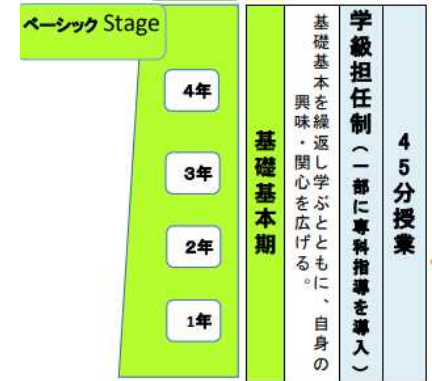


17

I 義務教育学校とは

◆ ベーシックステージ(1~4年)

- ・4年生がリーダーとなる場面を意図的に創出(4年生による委員会活動など)。
- ・学習発表会を1~4年生で実施(5年生以上は合唱)。
- ・月に一度のたて割り活動。

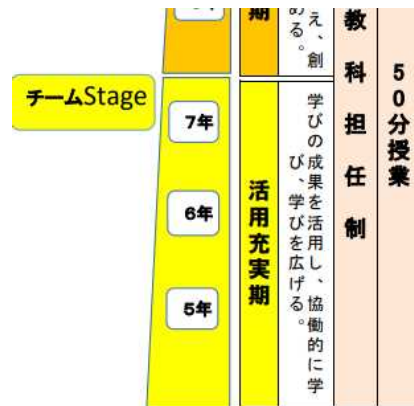


18

I 義務教育学校とは

◆ チームステージ(5~7年)

- ・教科担任制の導入。
 - ※学力向上に一定の成果
- ・小グループによる学習成果の発表交流を3学年で実施。
- ・生徒会活動、部活動への参加は5年生から。



19

I 義務教育学校とは

◆ ビジョンステージ(8~9年)

- ・8・9年生は、ともに学校のリーダーとして位置付け。
- ・8年生と4年生との合同宿泊研修の実施。
- ・生徒会役員への立候補は7年生から。



20